

商売は地域とともに

編者 編者 NPO法人神田学会ほか

東京都千代田区の神田付近には創業100年を超える老舗企業が多い。地域活動のNPO法人と東京大学大学院の都市デザイン研究室が共同でその歴史的背景をひもとく。

要諦は「職人の倫理観」だ。

本書は「いい仕事を継続することによってひとつの商品の価値を高めることを善と考える思考パターン」が大切と指摘。経済発展と共に大量生産型の企業行動をとる製造業が多い中で、神田の老舗企業は手仕事を主体として細く長く継続していこうとする遺伝子があると分析する。

商売は地域と

ともに

神田百年企業の足跡



NPO法人神田学会
東京大学大学院都市デザイン研究室

2014

東京・神田 老舗の粋と倫理観

「見栄とやせ我慢」。地元の人たちはこう表現する。

老舗企業が集積するのは地の利も大きい。繰り返された江戸の大火、大正時代の関東大震災、昭和の東京大空襲で焦土と化した危機の時代でも神田川、中山道、奥州街道の交通の要所として復興が急がれた。神田周辺には大工を中心とした御用達職人の居住地が存在したことも見逃せない。復興を早めるため建物の外形にこだわらない実質主義も企業、地域文化として根付いた。一度街を離れた会社も再び戻ってくる。結果的に地域の絆が再認識される。

それぞれの老舗企業の生き残り策も興味深く読める。神田に隣接する大手町地区の大規模開発とは全く違う街づくりに「神田っ子」の粋な姿があった。(東京堂出版・2800円)